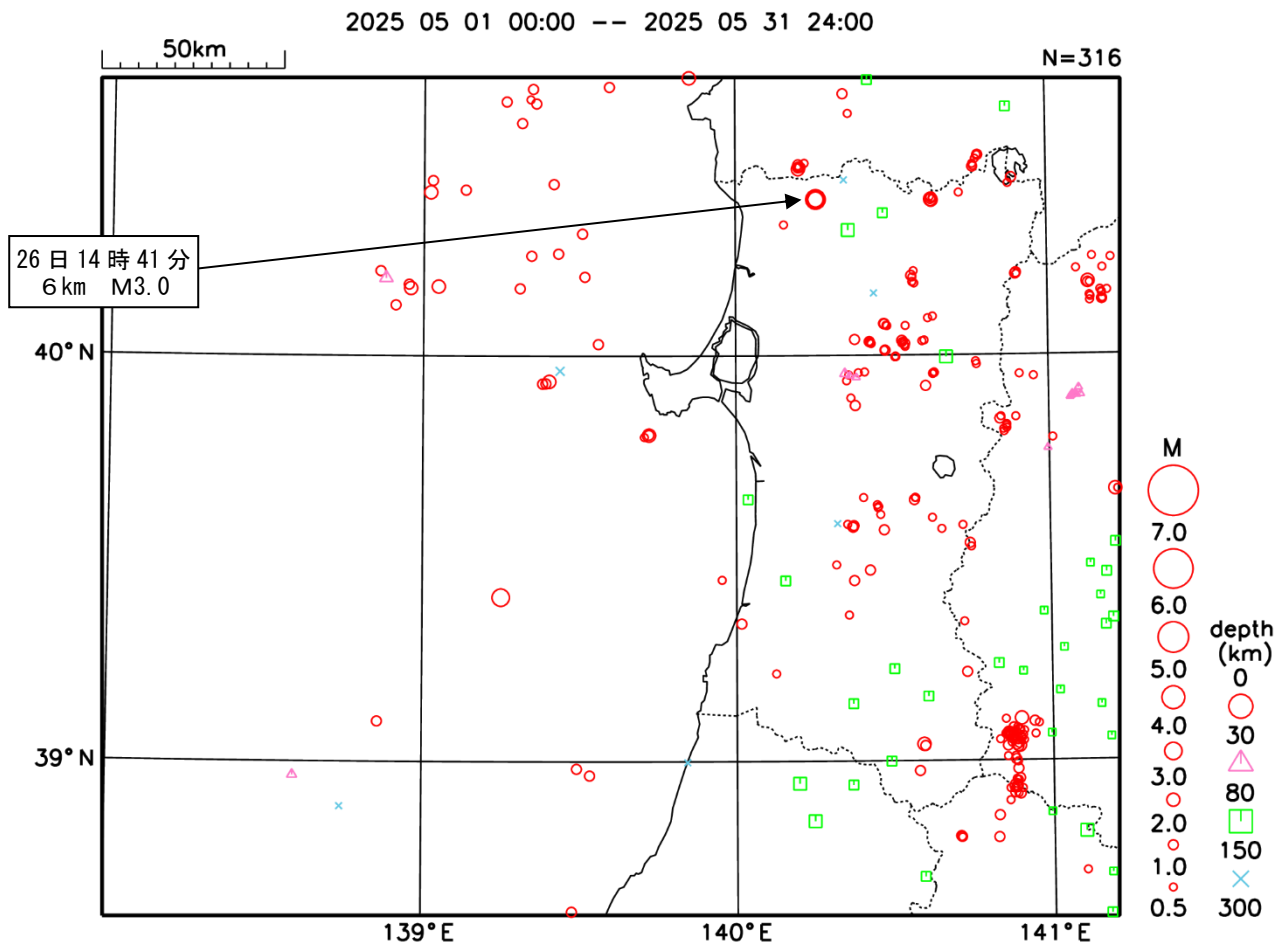


秋田県月間地震概況

秋田地方気象台

2025 年 5 月

【震央分布図】



〈5月の地震概況〉

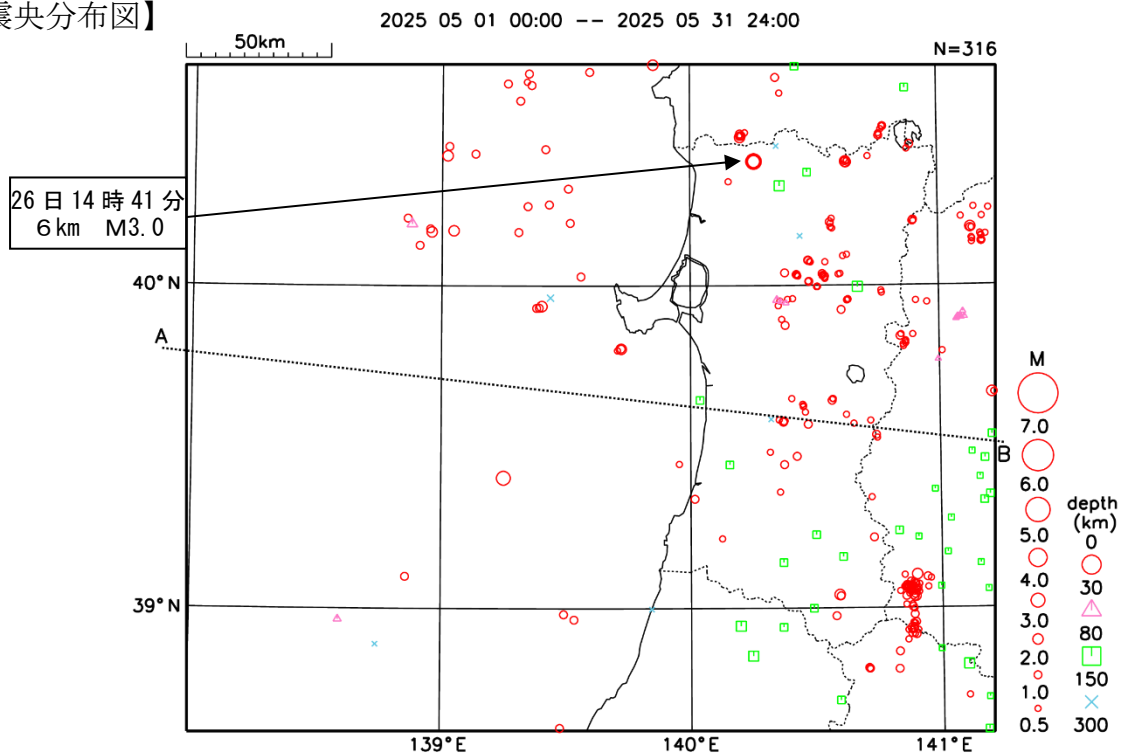
今期間、秋田県内で震度1以上を観測した地震は3回（4月：5回）で、図の範囲内を震源とする地震が1回、図の範囲外を震源とする地震が2回であった。

26日09時56分に宮城県沖（図の範囲外）の深さ32kmでM4.5の地震が発生し、岩手県と宮城県で震度3を観測したほか、青森県と秋田県で震度1を観測した。県内では仙北市で震度1を観測した。この地震は、陸のプレート内で発生した。

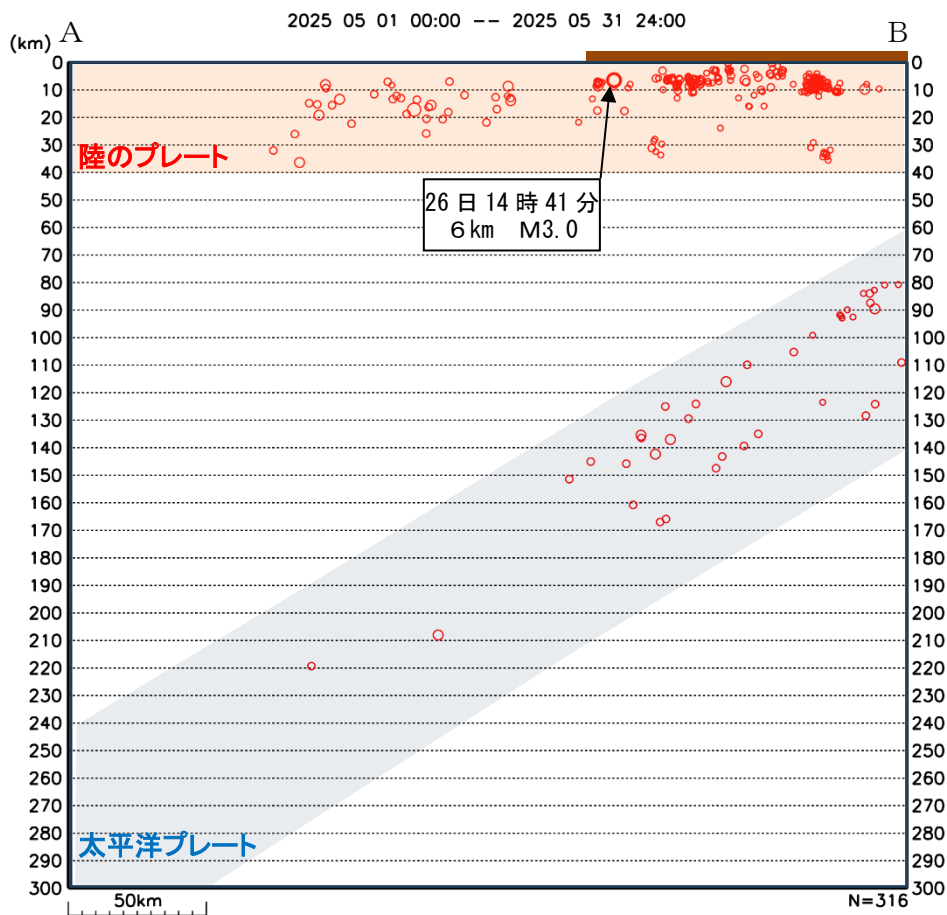
26日14時41分に秋田県沿岸北部の深さ6kmでM3.0の地震が発生し、三種町で震度1を観測した。この地震は、地殻内で発生し、4月14日に発生した青森県津軽南部の地震からおよそ南東10kmの近傍で発生した。これらの領域では、地震がまとまって発生していたが、6月上旬から発生頻度は低下している。

31日17時37分に釧路沖（図の範囲外）の深さ20kmでM6.0の地震が、同日17時39分にほぼ同じ震央の深さ12kmでM5.0の地震が発生した。これらの地震はほぼ同時刻に発生したため震度の分離はできないが、北海道で震度4を観測したほか、東北地方から関東地方にかけて震度3～1を観測した。県内では鹿角市で震度1を観測した。この地震は、陸のプレート内で発生した。

【震央分布図】



【断面図】（震央分布図内の直線A－Bを断面として投影した震源の深さの分布）



※ 太平洋プレート及び陸のプレートの位置は、地震発生状況を考慮して描いた大まかなものである。

※ は陸地の大まかな位置を示している。

※ 陸地から離れた海域ほど、震源の深さ精度は良くない。

なお、海域地殻内の地震の震源（日本海の浅い地震など）は、実際にはより浅いものが多いと考えられる。

秋田県で震度 1 以上を観測した地震の表

※今後の精査により、震源や震度のデータが追加されることがある。

期間 2025年05月01日～2025年05月31日

発震時	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
各地の震度					
2025年05月26日09時56分	宮城県沖	38° 30.6' N	142° 00.9' E	32km	M4.5
秋田県	震度 1：仙北市西木町上桧木内＊				
2025年05月26日14時41分	秋田県沿岸北部	40° 23.0' N	140° 15.5' E	6km	M3.0
秋田県	震度 1：三種町森岳＊				
2025年05月31日17時37分	釧路沖	42° 19.6' N	144° 27.1' E	20km	M6.0
2025年05月31日17時39分	釧路沖	42° 18.2' N	144° 26.4' E	12km	M5.0
秋田県	震度 1：鹿角市花輪＊				

(注) 地震の震源要素等は暫定値であり、再調査により変更することがある。
複数の震源要素を併記しているものは、ほぼ同時刻に発生した地震のため震度の分離ができないことを示す。
各地の震度は秋田県のみを示し、＊は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点である。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

津波フラッグを見たらすぐにげて！

今年も海水浴シーズンが近づいてきました。もし、海で泳いでいるときに、大津波警報、津波警報、津波注意報（以下、津波警報等といいます。）が発表されたら、どうやってその情報を手に入れたらよいのでしょうか？

普段であれば、テレビやラジオ、スマートフォンなどの携帯端末で津波警報等が発表されたことを即時に知ることができます。しか海水浴場

し、海で泳いでいるときに大きな地震が発生した場合、津波警報等を入手できる機器などは手元がないことがほとんどです。そのため、多くの海水浴場では、サイレンなどの音を使って泳いでいる皆さんに津波警報等の発表をお知らせしていますが、波音や風で音が聞き取りにくい場所にいる方や音が聞こえない・聞こえにくい方には伝わらない可能性があります。

そのため、海水浴場等で「津波フラッグ（赤と白の格子模様の旗）」を用いて津波警報等を伝達する取り組みを行っています。令和6年4月3日に台湾付近で発生した地震で津波警報が発表された沖縄県内では、実際に津波フラッグを活用した伝達が行われ、多数の方が速やかに津波から避難しました。

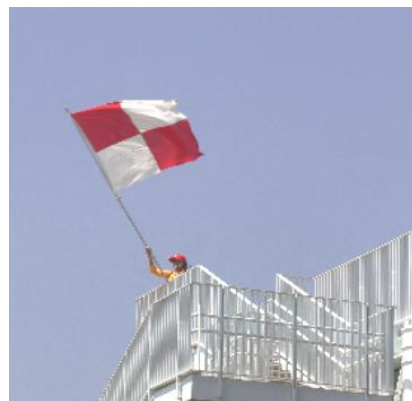
皆様も、**海水浴場や海岸付近で津波フラッグを見かけたら、速やかに高い場所に避難してください。**



マンガ小冊子「津波フラッグをおぼえよう！！」

作成：（公財）日本ライフセービング協会・気象庁

https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/tsunami_bosai/img/tsunami_flag_manga.pdf



津波フラッグのイメージ

（公財）日本ライフセービング協会提供

※ 旗を建物に掲げるなど他の手法でお知らせすることもあります

● 津波フラッグの解説ページ

https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/tsunami_bosai/tsunami_bosai_p2.html

地震だ、津波だ、すぐ避難

- ◆ 津波はとても速いので、津波を見てからにげて間にも合いません。海岸付近で地震の揺れを感じたり津波警報等が発表されたことを知ったら、海辺から離れ、より高い場所に急いで避難しましょう。
- ◆ 目指すところは、避難所ではなく避難場所です。沿岸にお住まいの方や旅行される方は、「津波ハザードマップ」で「津波の避難場所」等を確認しておきましょう。また、日頃からいろいろな場合を考えて、避難経路やいざという時の行動などを周りの人と話し合っておくことが大切です。
- ◆ 車を利用した場合、渋滞などにより円滑に避難できない場合があります。原則、徒歩で避難しましょう。